



高西小だより

H25, 9, 13(金) 校長: 古屋 NO8

学校教育目標

夢を切り拓く

心豊かで

たくましい子ども

「私にとって大切なのは、 私が持っているものであって、私が失ったものではない」

今、オリンピックが2020年に東京で開催されることが決まり、オリンピックの話題一色になっています。その中でも、最終プレゼンテーションをした走り幅跳びでパラリンピック3度出場の佐藤真海さんが一躍「時の人」になっています。それは、彼女の自然な笑顔や悲しい表情を交えての約4分間のスピーチが人々の心を打ち、オリンピック招致を成功させた大きな要因の1つとなったからです。特に、人々に感動を与えたのが、「私にとって大切なのは、私が持っているものであって、私が失ったものではない」という言葉です。骨肉腫によって足を失い、絶望の中から立ち上がった彼女の生き方を象徴する言葉でした。ここに、改めて最終プレゼンでの佐藤真海さんの言葉を紹介します。

私がここにいるのは、スポーツによって救われたからです。スポーツは私に人生で大切な価値を教えてくださいました。それは、2020年東京大会が世界に広めようと決意している価値です。今日は、そのグローバルなビジョンについて説明します。

19歳のとき、私の人生は一変しました。私は陸上選手で、水泳もしていて、また、チアリーダーでもありました。そして、初めて足首に痛みを感じてから、たった数週間のうちに骨肉腫により足を失ってしまいました。もちろん、それは酷なことで、私は絶望していました。

でもそれは大学に戻り、陸上に取り組むまでのことでした。私は目標を決め、それを越えることに喜びを感じ、新しい自信が生まれました。

そして何より、私にとって大切なのは、私が持っているものであって、私が失ったものではないということ学びました。

私はアテネと北京のパラリンピック大会に出場しました。スポーツの力に感動させられた私は、恵まれていると感じました。2012年ロンドン大会も楽しみにしていました。

しかし、2011年3月11日、津波が私の故郷の町を襲いました。6日もの間、私は自分の家族がまだ無事であるかどうかわかりませんでした。そして家族を見つけ出したとき、自分の個人的な幸せなど、国民の深い悲しみとは比べものにもなりません。

私はいろいろな学校からメッセージを集めて故郷に持ち帰り、私自身の経験を人々に話しました。食糧も持って行きました。ほかのアスリートたちも同じことをしました。私達は一緒になってスポーツ活動を準備して、自信を取り戻すお手伝いをしました。

その時初めて、私はスポーツの本当の力を目の当たりにしました。新たな夢と笑顔を育む力。希望をもたらす力。人々を結びつける力。200人を超えるアスリートたちが、日本そして世界から、被災地におよそ1000回も足を運びながら、5万人以上の子どもたちを刺激しています。

私達が目にしたのは、かつて日本では見られなかったオリンピックの価値が及ぼす力です。そして、日本が目にしたのは、これらの貴重な価値、卓越、友情、尊敬が、言葉以上の大きな力をもつということです。

昨年12月に、佐藤真海さんを最終プレゼンの1番手で起用する案が検討されたようです。東京都が掲げる「スポーツの力」を体現する存在であり、宮城県の出身でもあったことから、被災地と開催地東京の2つをスポーツで結ぶシンボルになれると考えた東京都の温めた「秘策」でもあったようです。そういった意味では、この起用は大成功であった訳です。

しかし、この11日、東日本大震災発生から2年半となりました。住宅再建が本格化するなど明るい動きが出る半面、岩手、宮城、福島3県などで被災した約29万人は今も避難生活が続いています。福島第1原発がある福島県では、除染の遅れや放射能汚染水漏れ等の大きな問題もあります。

「正と負」の両極を持つ今の日本。しかし、今後7年間、そしてそれから、子どもたちは、1年生は中学生へと、6年生は大学、社会人へと確実に成長していきます。2020年のオリンピックを契機に、佐藤さんの言葉を借りるとしたら、「新たな夢と笑顔を育む力」「希望をもたらす力」「人々を結びつける力」を通して、子どもたちには、「負」の部分「正」の方向へと変換させるしなやかな力と叡智を身に付けてあげさせたいものです。

これからも多くの壁が立ちます。大事なことは、倒れないことではなく、倒れるたびに起き上がることではないでしょうか。

「明るい選挙出前授業」が行われました！（6年生）

11日、山梨県及び北杜市の選挙管理委員会による「明るい選挙出前授業」が6年生を対象に行われました。県選管から成澤委員長様と職務代理の中村様をはじめ、県と市の担当者、報道機関、また、自動読み取り機など投票事務を担当する業者さんなどたくさんの方々が参加して行われました。5年生も来年度の児童会選挙の参考にしよう和本物の投開票の様子を見学しました。6年生は、普段体験することのない本物の選挙に関わる内容だけに、たくさんの驚きの声が聞かれました。

- 県知事選投票率が42.29%で過去最低だったことを知りました。
- 県知事選挙が約3億6千万もかかっていることにビックリした。
- 選挙にたくさんのお金がかかるのに、投票率が約40%しかない事に驚いた。
- 今の若い人は、選挙に行かない人が多いので、しっかり行こうと思いました。
- 票が同じ場合は、くじで決めるという事が1番驚きました。
- どれだけ選挙の1票が大切なのかが分かりました。
- 選挙は、あまり関係ないと思っていただけ、けっこう身近にあってびっくりしました。
- 選挙の投票用紙が簡単には切れない（破けない）ことにビックリしました。
- 機器（自動読み取り機など）が500万円くらいすることがビックリしました。



本当だ。破りにくいね。



模擬選挙での演説会も緊張しました。



受付から投票までの流れも実際と同じ。



ペットボトル、ボール何でも利用して！
「人権教室」開催！



6年生は6年間の感謝の気持ちを込めて。

（6年生）

12日、人権擁護委員の小宮山光江先生をはじめ、4名の方々にご来校頂きました。小宮山先生は、偶然にも私の前任校の竜王北小でも当時、小学校初の人権教室開催にあたりご指導頂いた先生でした。

授業は、「人権とは、幸せに生きる権利であり、誰もが奪ってはならないもの」というお話から始まりました。鹿島和雄さんの「あのね帳」「幸せのおなら」から「人のいたみを思いやる心」の大切さにふれ、新聞記事に掲載された高校生の細山高嶺さんの「いじめをしている君へ」を取り上げて、いじめられている人といじめている人両者の心情、「死ぬ」という言葉が持つ怖さ等をそれぞれの立場に寄り添った形で話されました。

そして、最後に、世界人権宣言の第1条の「全ての人間は生まれながらにして自由平等である。」第2条の「差別してはならない。」という内容にふれながら、「自分も他者も大切にしてほしい。」「私という人間は世界でたった一人しかいない。」「自分が自分であることに価値がある。」等、子どもたちの心情に染み込む数々の言葉を残し、大きな拍手と共に授業は終わりました。



